＜配布基準：全担当店1部＞

平成１２年８月

安田火災記念財団 News

●発行者：財団法人安田火災記念財団　〒160-8338　東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL03-3349-3130　FAX03-3349-3133　http:www.yasuda.co.jp/foundation/　E ﾒｰﾙ:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

平成１２年度

社会福祉助成金（ＮＰＯ法人設立資金）贈呈式開催

安田火災記念財団では、平成 12 年度社会福祉助成金として、全国の１００の障害者・高齢者福祉活動団体に対し、ＮＰＯ法人設立資金を助成しました。（１団体あたり３０万円、総額３,０００万円）現在、全国に約 2,000 のＮＰＯ法人が誕生していますが、当財団はその１割にあたる２００団体に助成したことになります。

関東地区の４７の助成先には当財団で、それ以外の５３の助成先には各支店で、「社会福祉助成金贈呈式」を開催していただいています。８月１６日現在、各支店から寄せられた贈呈式に関するマスコミ掲載記事をここにご紹介します。各支店のご協力に深謝いたしますと共に、助成先ＮＰＯ法人の活動を引続きフォローいただければ幸いです。

＊＊　掲載記事　＊＊

（主催部店）	１．東北海道支店	（掲載紙）	７／２７釧路新聞	
			８／４　十勝毎日新聞	… Ｐ．２
	２．山形・鶴岡支社		８／５　庄内日報	… Ｐ．２
	３．松本支店		８／１　長野日報	… Ｐ．２
	４．静岡支店		７／２０静岡新聞	… Ｐ．３
	５．浜松支店		７／２５静岡新聞	… Ｐ．３
	６．岐阜支店		７／１１岐阜新聞	… Ｐ．４
	７．滋賀支店		７／２９滋賀毎日新聞	… Ｐ．４
	８．三重支店		７／６　伊勢新聞	… Ｐ．５
	９．島根支店		７／１５山陰中央日報	… Ｐ．５
	１０．岡山支店		８／７　岡山日日新聞	… Ｐ．６
	１１．佐賀支店		７／１９佐賀新聞	… Ｐ．６
	１２．熊本支店		７／２７熊本日日新聞	… Ｐ．６
	１３．宮崎支店		７／２９宮崎日日新聞	… Ｐ．６
	１４．記念財団		７／２８保険銀行日報	… Ｐ．７

＊参考＊　当財団は、昭和５２年１０月に設立。主な活動は、本件の社会福祉助成のほか、わが国における優れた社会福祉学術文献を表彰する「安田火災記念財団賞」、社会福祉・社会保険・損害保険に関する研究助成や研究会、講演会の開催等です。なお、これまでの社会福祉助成の累計は、およそ 1150 件、８億５千万円になります。

1．東北海道支店

7／27釧路新聞

「わたぼうしの家」など

安田火災記念財団　2団体に助成金贈る



謝辞を述べるわたぼうしの家の佐々木副会長(左)とネットワークサロンの滝代表（右）

NPO法人（特定非営利活動法人）の設立を目指す民間福祉団体を支援する、財団法人安田火災記念財団（後藤康男理事長）の平成十二年度社会福祉助成金の贈呈式が二十六日、安田火災釧路ビルで行われた。全国で百団体が助成されたうち、釧路地域からは、釧路市の「わたぼうしの家」設立準備委員会（岩渕雅子会長）と、地域生活支援ネットワークサロン（滝文枝代表）の二団体に贈呈された。

同財団の社会福祉助成は昭和五十二年からスタートしているが、昨年度からNPO法人設立を目指す障害者、高齢者などの福祉活動を進める団体を助成している。

「わたぼうしの家」設立準備委員会は、高齢者の介護家族の会から出発し、当事者と介護家族のニーズをくみ上げた痴呆老人のグループホーム、デイサービス事業などに取り組み始めている。一方、地域生活支援ネットワークサロンは障害児を持つ親の会からスタートし、医療、福祉の専門家はじめ市民を巻き込んで、子育て相談や託児サービス事業などに取り組んでいる。

贈呈式では安田火災海上保険東北海道支店の今井一味郎支店長が「一日も早く法人化し、地域の社会福祉への貢献を期待します」とあいさつ。それぞれ三十万円をわたぼうしの家の佐々木幸子副会長、ネットワークサロンの滝文枝代表に手渡した。

8／4　十勝毎日新聞

障害児生活支援センターにNPO設立資金を寄付

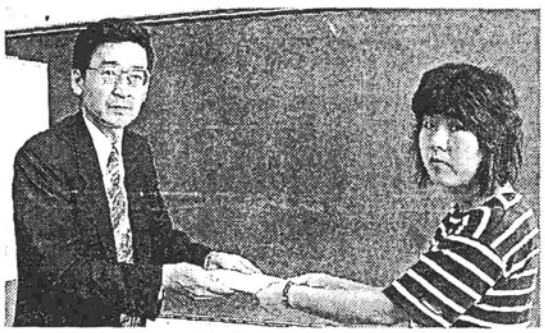
安田火災記念財団

【社会部＝岡村忍】安田火災記念財団（後藤康男理事長）は三日、障害児のための学童保育センターわいわいクラブ（増田三智代運営委員長）に、NPO法人設立資金として三十万円を寄付した。今井一味郎安田火災海上保険東北海道支店長と内田清同帯広支社長が帯広養護学校を訪れ、増田委員長に手渡した。

同財団は社会福祉助成金として全国百の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO）設立基金として各三十万円の助成を決定。道東地区からは同クラブを含む三団体に決まった。

同クラブは養護学校に通う児童生徒の母親らで五年前に設立。放課後生活支援センターとして現在二十一人の子供たちが通っている。今年度内にはNPO法人の設立を予定。

設立資金を受け取った増田委員長は「障害を持っている子供たちはまだまだ理解が得られていない。支援を無駄にしないよう活動したい」と話していた。



今井支店長からNPO法人設立資金を受け取る増田さん（右）

2．山形・鶴岡支社

8／5　庄内日報

あゆみの家に助成金を贈る

安田火災財団

安田火災記念財団（後藤康男理事長）は三日、鶴岡市家中新町の民間宅老所つるおか「あゆみの家」（石原一恵代表）に社会福祉助成金として三十万円を贈った。

同財団は昭和五十二年から毎年、全国の障害者・高齢者福祉団体に助成している。本年度は特定非営利活動促進法（NPO法）に基づく法人設立を目指す百団体で、県内からはあゆみの家が選ばれた。

あゆみの家は高齢者のミニデイサービス施設で、一日に四人前後の高齢者が通所している。先月、県にNPO法人の申請をした。

この日は鶴岡市錦町の安田火災海上保険鶴岡支社で贈呈式が行われ、佐藤脊彦支店長が石原代表に助成金の目録を手渡した。石原代表は「大変ありがたい。今後とも地道に頑張っていきたい」とお礼を述べた。



佐藤支社長から目録を受け取る石原代表（左）

3．松本支店

8／1　長野日報

岡谷腹話術の会に助成

安田記念財団

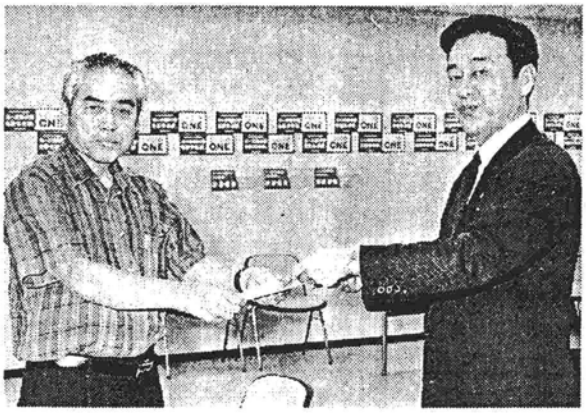
安田火災海上保険の社会福祉組織である安田記念財団（後藤康男理事長）は今年度、腹話術友の会おかや（堀内一光代表）にNPO（民間非営利団体）の法人設立資金として三十万円を助成する。三十一日、安田火災海上保険の吉沢和男松本支店長らが堀内代表に助成通知書を伝達した。

同財団は一九七七年（昭和五十二年）の設立、毎年全国の社会福祉団体へ助成金を贈呈。昨年度からは、高齢者・障害者のために活動する福祉団体がNPO法人を設立するための資金支援を行っており、全国で百団体に総額三千万円を贈呈する。

腹話術友の会おかやは、岡谷市公民館を拠点に諏訪地方の腹話術愛好者が集い、今年で十二年目。地元の保育園や老人福祉施設を訪問し、腹話術で交流。一昨年ごろからは全県や県外の老人ホームや病院から上演依頼が相次ぎ、二日に一度は施設慰問を行う人気ぶりという。

活動が活発になるとともに本格的な組織化を図ることを決め、現在、県にNPO設立認証を申請している。

通知書を受け取った堀内代表は「活動は多忙だが、訪問先でお年寄りから学ぶことも多く、楽しみつつ活動している。これからも一生懸命頑張りたい」と喜んでいた。



ＮＰＯ法人設立資金の助成通知書を伝達

4．静岡支店　7／20静岡新聞

安田火災記念財団が社会福祉で助成金

安田火災記念財団は十九日、社会福祉助成贈呈式を静岡市駿府町の県総合社会福祉会館で行った。庵原郡富士川町の県中途失聴・難聴者協会に社会福祉助成金として三十万円を贈呈した＝写真＝。

同協会は県聴覚障害者情報センターでのケアカウンセリング、県や市町村主催の要約筆記奉仕員養成講座への講師を派遣、県内巡回の難聴者元気の出る集いの開催などの活動を行っている。今後、中途失聴者や難聴者向けの商品の販売などを行うためにNPO法人設立を目指していくという。同助成金は全国の障害者・高齢者の百団体に贈られる。県内では同協会と浜松市のクリエイティブサポート「レッツ」が選ばれた。



5．浜松支店　7／25静岡新聞

浜松の知的障害児者支援団体に30万円寄付

安田火災記念財団

安田火災記念財団（理事長・後藤康男安田火災海上保険名誉会長）は二十一日、今年五月に発足した浜松市の知的障害児者クリエイティブサポート「レッツ」（久保田翠代表）にNPO法人設立資金三十万円を寄付した。

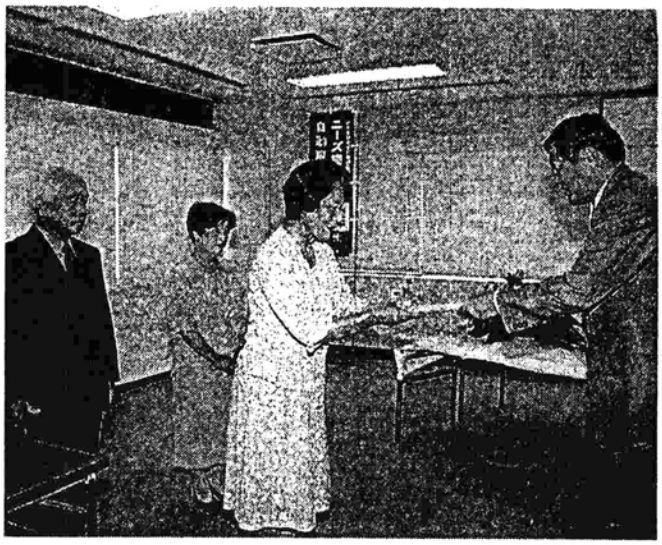
同市成子町の市福祉文化会館で行われた贈呈式では、同社浜松支店の浅野俊雄支店長が久保田代表に、助成の決定通知を手渡した。久保田代表は「NPO法人として、長く活動していきたい。感謝しています」とお礼を述べた。

同財団は、昭和五十二年の設立から社会福祉助成を行い、今年で二十三回目。今年は、全国で百団体に合わせて三千万円を贈呈した。県内ではレッツを含め二団体が助成を受けた。



浅野支店長（左）から決定通知を受け取る久保田代表
＝浜松市成子町の市福祉文化会館

6．岐阜支店　7／11岐阜新聞



杵鞭憲一岐阜支店長（右）から助成金の証書を受け取る久世須磨子代表＝大垣市旭町、安田火災海上保険

大垣の「なでしこ」がNPO設立助成対象

安田火災記念財団

民間の社会福祉団体に助成事業を行っている安田火災記念財団（理事長・後藤康男安田火災海上保険会長）の本年度のNPO（特定非営利活動法人）設立助成対象団体に、県内では大垣市の奉仕団体「なでしこ」（久世須磨子代表、団員六十四人）が決まり、十日、同市旭町の安田火災海上保険岐阜支店大垣支社で贈呈式が行われた。

同財団の社会福祉助成は一九七七（昭和五十二）年から行われており、これまでの助成金額累計は八億五千万円に上る。NPO設立資金の助成は全国百の団体に各三十万円が贈呈される。

「なでしこ」は五年前に発足。大垣市のお年寄りを中心に、毎日約五十食の配食サービスを行っている。

この日、杵鞭憲一岐阜支店長から贈呈を受けた久世代表は「NPO設立を目指したのは、ボランティアには限界がある。社会的な位置づけを目指そう、という団員の声がきっかけ。時代に合ったサービスができるよう、さらに頑張りたい」と抱負を述べた。

7．滋賀支店　7／29滋賀毎日新聞

県内2団体に社会福祉助成金を支給

安田火災記念財団

安田火災記念財団（後藤康男理事長）は今年度の社会福祉助成金として全国100カ所の障害者、高齢者団体に対し、NPO法人設立資金として各30万円、計3000万円の支給を決めた。

28日に県内で支給を受けたのは、大津市の「差別とたたかう共同体全国連合」（門脇謙治代表、077・543・2766）と守山市の「スペースウイン」（西村悌子代表、077・581・8436）。「差別と～」は〝共働事業所〟を開き、障害者と健常者がともに働く場所作りを目指す。「スペース～」は、和紙作りと押し花製作を通じて高齢者と障害者がともに支えあう共同作業所作りが目標。【畑山　博史】